

I C T で 授 業 を D X ！

学年 小学校 4 年 教科 社会 など

まなびポケットでつながる学習！広がる学習！

使用するアプリケーション等

- ・まなびポケット
- ・Microsoft Forms

単元・題材 自然災害からくらしを守る～私たちの減災・防災宣言～

D X のねらい 学校内の学習を、ICTを使い各家庭へと広げ、家庭学習の新たな試みに挑戦する。

Microsoft Forms

I C T を活用することで できること

- ・児童が学習のまとめで考えた自分のまとめを、まなびポケットを使うことで容易に交流しやすくなる。さらには、交流の際に「いいね」ボタンを押して友だちの良さを認めたり、コメントで感想や助言を送ることができる。この活動を学級内に留めず、家庭でも同様に行うことで学校と各家庭、子（個）と各家庭をICTでつなげ、大人からの評価・コメントをもらいさらに深い学びへとつなげる。
- ・友だちの作品に対して感想など何を書いていいか苦手と感じている子どもたちも、アップされているコメントを見てモデリングすることで、コメントを書くことができるようになる。
- ・この方法を継続していくことで教師はプリントやノートの山を作ることなく、PCがあれば処理できるので業務改善につながる。また、今まではまとめた作品での評価が主であったが、コメントの内容など主体的に学びに取り組む態度としても評価できる。

D X 前（I C T を使っていなかった頃は・・・）

- ① 今までの学習内容や学習問題の結論をふり返る。
- ② 災害（本単元は水害）が起きた時、自分たちが何ができるか考える。
- ③ 本時のめあてと見通しをもつ。

めあて わたしの減災・防災宣言をつくろう

2 展開

- ① 今までに調べてきてことをもとに、自分でできることを調べたり、考えたりする。
 - ・ ノートを見直す。
 - ・ 教師が用意した資料から調べる。
 - ・ 学級で集計した家庭での取り組みをもとに考える。
- ② 考えた内容をもとに、わたしの減災・防災宣言をつくる。
 - ・ 教師が用意したワークシートにまとめる。
- ③ 完成した「わたしの減災・防災宣言」を見直す。
 - ・ ペアやグループでできた宣言を見合い、アドバイスをする。
 - ・ 宣言を修正する。

3 まとめ

- ① できた宣言を見合い、交流する。
- ② 友だちの宣言を見て
 - 良いところや参考にしたいことを付箋紙に書いて、友だちの宣言に貼る。
 - 「～するといいのではないかと」アドバイスを付箋紙に書いて、友だちの宣言に貼る。
 - * 一定の期間、教室内に掲示して友だちの宣言を見合う。

DX!

D X 後（赤字はICT活用場面）

1 導入

- ① 今までの学習内容や学習問題の結論をふり返る。
 - 端末に保存している自分の集めた資料や授業で活用した資料をふり返る。
- ② 災害（本単元は水害）が起きた時、自分たちが何ができるか考える。
 - 事前課題としていたMicrosoft Formsのアンケート結果をもとに交流する。
- ③ 本時のめあてと見通しをもつ。

めあて わたしの減災・防災宣言をつくろう

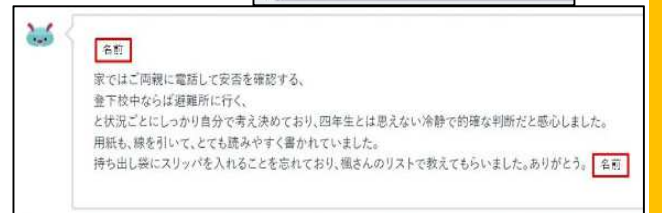
2 展開

- ① 今までに調べてきてことをもとに、自分でできることを調べたり、考えたりする。
 - 端末に保存している自分の集めた資料や授業で活用した資料をふり返る。
 - 教師が用意した資料から調べる。（児童の端末に送信）
 - 事前に用いて家庭にお願いしていた減災・防災についてのアンケート結果をもとに考える。
- ② 考えた内容をもとに、わたしの減災・防災宣言をつくる。
 - 教師が用意したワークシートにまとめる。
- ③ 完成した「わたしの減災・防災宣言」をまなびポケットにアップロードする。
 - ワークシートを端末で写真撮影し、まなびポケットにアップロードする。
 - 上手に写真が撮れない子は、友だちや教師が手伝うようにする。
- ④ 学びポケットにアップした「わたしの減災・防災宣言」に「いいね」と「コメント」を入力し、相互評価を行う。
 - 良いと思った友だちの作品に「いいね」を入力する。
 - コメントに理由も入れるように指示をする。
 - 修正などのアドバイスをコメントに入力する。
 - それをもとに、自分の宣言を修正し、再度アップする。



3 まとめ

- ① 家庭に端末を持ち帰り、保護者に評価をお願いする。
 - 自分の子どもの評価をする。
 - 他の子どもの宣言も読み、保護者が「実現度が高い」「これは必要だ」と感じたことを書いている児童を評価するよう依頼する。
- ② 家庭からのコメントをもとに再度交流する。
 - 端末から自分の保護者の評価を見て、どう感じたか交流する。
 - 端末を見て、他の保護者からもらった評価をもとに、どのような宣言がよかったのか学級で話し合う。



授業者から（成果・課題・留意点）

- ・付箋紙などを使った交流と比べると紙の煩雑さ（サイズ感、枚数など）がなく、交流中のロスタイムも少なく、交流のしやすさを感じる。また、リアルタイムでコメントが更新されていくことで、子どもたちは「自分もいいねがほしい！」と意欲的に取り組む姿が見られた。
- ・家庭とつながれたことは大きな成果である。4年生の社会科の学習は大人の社会を多く学ぶ。その社会で生きる大人から評価・コメントをもらうことの効果は大きく、自信になったり、自分の考えを見直すきっかけになったりした。保護者の協力を得るため、事前に学習の意図やねらいなどを伝えておく必要がある。よい意見だけでなく、学習を深めるため「～するといいのではないかと」助言をいただきたいことも伝えておく必要がある。ただ、保護者もSNS感覚で積極的に関心してもらい、とても活発な意見であった。
- ・今回は、子どものICT活用スキルの差が大きく、紙で作成したものを写真で撮り、共有をした。今後は、WordやPowerpointなどのファイルでまとめを作成し、共有をしたい。（学びポケットは共同編集は難しいが、共有は容易）